

第42回全日本杖道大会二段の部

三歩さん(文4) 最高賞に輝く



アトリウムに華やかな音色

昼休みに音楽のプレゼント——。秋のミニコンサートが11月13日、生田キャンパス9号館アトリウムであり、吹奏楽研究会(室井健吾代表=文4、59人)が、華やかな演奏で会場を沸かせた=写真。

当日はメンバー20人が参加。サクソ八重奏「名探偵コナンのテーマ」、バリ・チューバ三重奏「風の谷のナウシカ」、木管五重奏「ファイナルファンタジーメドレー」、トロンボーン四重奏「ディズニーメドレー」など、なじみ深い曲を披露した。学生たちは昼食の箸を休め、盛んに拍手を送っていた。

同研究会の松橋萌子さん(人間科学3)は「アトリウムは天井が高いので、普段の練習よりもよく響いていました。学内で演奏する機会はなかなかないので、今回のコンサートで吹奏楽研究会を知っていただけたらうれしいです」と話した。

同研究会は12月28日に府中の森芸術劇場どりーむホールで第52回定期演奏会を開催する。入場無料。

優秀賞のメダルを掲げる三歩さん(左)と逆井さん



専修大学杖道会(岡田博希代表=文2)の三歩拓さんと逆井拓海さん(いずれも文4)が、第42回全日本杖道大会(10月11日、神戸市)の二段の部で最高賞にあたる優秀賞に輝いた。同会OB野澤草太さん(平20法・札幌市)も五段の部で第1位に。学生と卒業生の全日本最高賞獲得は1999年誕生専大杖道会始まって以来。

OB野澤さん1位(五段の部)



五段の部第1位に輝いた野澤さん(全日本剣道連盟ホームページから)

三歩さん、逆井さんは「負があった」と胸を張る4年間切磋琢磨し、壁を乗り越えた末の栄冠だ。三歩さんが「練習量では誰にも負けないという自り返り、喜びを分かち合った。

杖道は長さ約128cmの丸い樫の杖を用いて、打つ、突く、払う「形の武道」。技は12種。試合では二組が紅白に分かれ、演武して競う。

留学生 居合の技体験

専修大学を訪れている留学生5人が11月29日、「One Day Teammate 楽しい居合道教室」に参加し、伝統の技を体験した。「One Day」は大学スポーツの技術と楽しさを地域住民に伝えるスポーツ教室。当日は地元の子どもたちや留学生ら11人が参加した。



帯を締め模擬刀を差した参加者は引き締まった表情で、基本的な技である「虎乱刀」の稽古を行った。「武道を通じて日本のことをもっと知りたいたい」と参加した。形を覚えるのが大変だったとフリードリック・スエードさん(米)。紅一点のハラミツシヨ・エナオ・リス・アネスさん(コロンビア)も「思ったより刀が重く、鞆に戻すのも難しい上苦勞した様子。言葉の壁を乗り越えな

二人は専大入学後、先輩の演武を見て杖道に魅了された。入学前三歩さんは柔道、逆井さんは剣道やバレーボールをやっていたが、杖道は「一技が力強くかつ美しい」「逆井さん」、「ほかの武道にないものを感じた」(三歩さん)という。

2年次からペアを組んだ。相対すると体型や力の出し方など相性のよさを実感したという。その年の夏の東京都大会でいきなり準優勝。ところが3年次の同大会では三歩さんが杖を落としてしま

い痛恨の1回戦負け。「握り方が甘かった。技術不足を身にしみて感じました。三歩さんはしばらくショックのため立ち直ることができなかったが、生田キャンパスでの週1回の稽古のほか都内での出稽古にも積極的に参加するなど練習に指導、部員の憧れの存在だ。

逆井さんは警視庁に採用が決まり、三歩さんは民間企業に就職予定。来春から別の道を歩む。「杖道は続けたい。二人でぜひと笑顔を交わした。

「握り方が甘かった。技術不足を身にしみて感じました。三歩さんはしばらくショックのため立ち直ることができなかったが、生田キャンパスでの週1回の稽古のほか都内での出稽古にも積極的に参加するなど練習に指導、部員の憧れの存在だ。

逆井さんは警視庁に採用が決まり、三歩さんは民間企業に就職予定。来春から別の道を歩む。「杖道は続けたい。二人でぜひと笑顔を交わした。

専修大学を訪れている留学生5人が11月29日、「One Day Teammate 楽しい居合道教室」に参加し、伝統の技を体験した。「One Day」は大学スポーツの技術と楽しさを地域住民に伝えるスポーツ教室。当日は地元の子どもたちや留学生ら11人が参加した。

帯を締め模擬刀を差した参加者は引き締まった表情で、基本的な技である「虎乱刀」の稽古を行った。「武道を通じて日本のことをもっと知りたいたい」と参加した。形を覚えるのが大変だったとフリードリック・スエードさん(米)。紅一点のハラミツシヨ・エナオ・リス・アネスさん(コロンビア)も「思ったより刀が重く、鞆に戻すのも難しい上苦勞した様子。言葉の壁を乗り越えな

高校生による 公開模擬裁判

専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒79人が参加した公開模擬裁判(エクステンションセンター主催、東京弁護士会法教育センター協力)が11月7日、神田キャン

パスの法廷教室で行われた。裁判官、検察官、弁護人を両校の生徒が担当。本職の弁護士からアドバイスを受けながら、窃盗未遂事件の被告人、被害者の尋問を行った。

裁判官の判決は無罪。審理を傍聴した生徒も無罪が多かった。東京弁護士会の弁護士が生徒たちから感想や意見を聞きながら、今回の争点や実際の裁判の様子などを解説した。

手話、点字学ぶ

学生部では日常生活や就職活動に役立つ講座を開催している。後期に生田キャンパスで行われた講座を紹介する。

【手話講座】

9月29日から12月1日までの毎火曜日、9回にわたり実施され、15人が手話の基礎を学んだ。写真。NPO法人川崎市ろう者協会の酒井郁さんが講師を務め、あいさつや「ありがとう」「おつかれさま」などの手話を練習した。参加した学生は

「思っていたより奥が深く難しい」と四苦八苦しながらも、最後には自己紹介や簡単なやりとりができるようになった。

【点字講座】

11月中の毎金曜日に開催。点字を読み、簡単な文章を書くことを目標に16人が参加した。

高校生による 公開模擬裁判

専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒79人が参加した公開模擬裁判(エクステンションセンター主催、東京弁護士会法教育センター協力)が11月7日、神田キャン

手話、点字学ぶ

学生部では日常生活や就職活動に役立つ講座を開催している。後期に生田キャンパスで行われた講座を紹介する。

【手話講座】

9月29日から12月1日までの毎火曜日、9回にわたり実施され、15人が手話の基礎を学んだ。写真。NPO法人川崎市ろう者協会の酒井郁さんが講師を務め、あいさつや「ありがとう」「おつかれさま」などの手話を練習した。参加した学生は

二人は専大入学後、先輩の演武を見て杖道に魅了された。入学前三歩さんは柔道、逆井さんは剣道やバレーボールをやっていたが、杖道は「一技が力強くかつ美しい」「逆井さん」、「ほかの武道にないものを感じた」(三歩さん)という。

若い人はエライ?

私が内心ひそかに感心していたのは、学生の礼儀正しさ。自分の意見もはっきり言うけれど、相手の意見も最後まで聞く姿勢を、全員が持っていました。思えば、全共闘世代とも言われる私たち団塊の若者たち。(学生部)

緑地帯

質疑と案外順調に運ぶ、延長戦はラウンドり、生硬な言葉を投げつけ合うばかりだった。なあ、それに比べて若い人はエライと、今昔の感がありました。

少し寝過ぎたので付け加えれば、参加学生の感想に「政治問題を話すと引かれて、ただ飲み会でウエイってしとけばよかったです。だったので、きちんと大学で『考える』ことができて良かった」と

「思っていたより奥が深く難しい」と四苦八苦しながらも、最後には自己紹介や簡単なやりとりができるようになった。

11月中の毎金曜日に開催。点字を読み、簡単な文章を書くことを目標に16人が参加した。

専修大学を訪れている留学生5人が11月29日、「One Day Teammate 楽しい居合道教室」に参加し、伝統の技を体験した。「One Day」は大学スポーツの技術と楽しさを地域住民に伝えるスポーツ教室。当日は地元の子どもたちや留学生ら11人が参加した。

帯を締め模擬刀を差した参加者は引き締まった表情で、基本的な技である「虎乱刀」の稽古を行った。「武道を通じて日本のことをもっと知りたいたい」と参加した。形を覚えるのが大変だったとフリードリック・スエードさん(米)。紅一点のハラミツシヨ・エナオ・リス・アネスさん(コロンビア)も「思ったより刀が重く、鞆に戻すのも難しい上苦勞した様子。言葉の壁を乗り越えな